

# 第19回復興支援プロジェクト レポート

2012.11.10 福島県 南相馬市周辺



フクシマを忘れないという支援。  
「福島県にとっては、  
3.11ではなく3.12なんです」

南相馬市の中で最も原発に近い小高区の商店街。最初の爆発があった昨年の3月12日で時間が止まっている。

## 復

興支援プロジェクトが始動して一年半、今回初めて福島県南相馬市に向かいました。

現地の方々からお聴きする情報、目にする光景、線量計の値。そのすべてが現実離れしており、嫌な夢でも見ているかのような錯覚に陥ります。有史上初めて日本が迎える試練、そして国が国民と世界に対してひた隠しにしたいタブーを目の当たりにした気がします。

人の気配がなく、風の音だけが響く商店街。放射能からの避難を余儀なくされ、高齢者だけが生活を続ける集落。叫びのような電子音とともに目まぐるしく乱高下を繰り返す線量計。殺処分だけはさせまいと、被ばく覚悟で痩せ細った牛たちを飼育し続ける酪農家とも出会いました。

我々にできることはないだろうかとたずねると、誰もが「福島のことを忘れないでほしい」と答えます。奇しくも、同じ被災地である東松島市の方々と同じ意味の答えが返ってきました。

テレビや新聞で報道されない声や現状を継続的に伝えていきながら、それぞれが、同じ東北で起きている現実を思いを巡らせるきっかけになれるのであれば、もう少しだけプロジェクトを続けていく意味があると思います。

突然の訪問にも、現地のすべての方々が快く、そして真剣に対応して下さいました。最後に立ち寄った『JAそうま』の産直では、地元産の農産物がびっしりと並べられています。生産者が放射線と向き合い、安全基準を徹底して学び、誇りと自信を持って出荷されている農産物には、確かな希望を感じることができました。(鈴木)

### 参加者

田澤繁（理事参事）、鈴木大亮（総合戦略室）、星見英朝（経理システム課）、瀧本啓（本店営業課）、加藤以久子（本店営業課）、金内恭子（本店営業課）、百瀬琢寛（農業支援室）、木村優友（JAG西郷店） 以上8名





各地で放射線量を測定。

原発に近いほど線量が高いわけではなく、ホットスポットと呼ばれる高線量地域があちこちに存在しました。

もっとも線量が高かったのは浪江町の牛のフンで13 $\mu$ シーベルト。ちなみに、JA鶴岡本所敷地は0.05 $\mu$ シーベルトでした。



南相馬市の小高区は地震そのものの被害も多く見受けられました。3/12に原発が爆発して一斉に住民が避難し、その日以来時間が止まったかのように市街地はゴーストタウンとなり、今も生活することはできません。



沿岸部には今もなお自動車やガレキが撤去されずにそのまま放置されています。放射性廃棄物のため、受け入れ先の見通しがつかないことから撤去さえされないのではないかと思います。



南相馬市の中でも原発に遠い鹿島区では日常を取り戻す動きが活発で、仮設の商店街は大勢の人達で賑わっていました。





南相馬市（原町区）のホテルで、マネージャーの小林氏から、震災から現在までの町の様子や商売への影響などについてを聞き取りました。小林氏ご自身も新潟県上越市で避難生活を送られており、今日のために駆けつけてくれました。



南相馬市・原町区にある星見英朝さん宅におじゃましました。英朝さんのご両親と祖父母は鶴岡での避難生活を経て、現在はこちらで生活されています。

参加者と記念撮影。前列左から2番目が英朝さん。後列左から3人目がお母様。



原発に近い浪江町は立ち入り禁止になっています。付近は人の気配がなく、関東ナンバーの警察車両が周辺をパトロールしていました。庄内ナンバー車両の我々も凝視されました。



浪江町からは3月12日に原発が爆発する瞬間が目視できたそうです。町はパニックとなり、死を意識したそうです。

「福島県にとっては3.11ではなく3.12なんです」という言葉が印象的。

「原発推進の方々は、福島に住んでみてから判断してほしい」という本音も。





浪江町の入口には、牛の殺処分反対の抗議看板。そして、餓死した牛の骨が訪れた人々に強烈に訴えかけてきます。

浪江町には約千頭の牛が飼育されており、そのうち300頭が野良牛となっているそうです。



「東電のいいなりで家族同然の牛を殺すことなどできない」。牧場を営む吉沢さんはそう訴え続け、今もなお自身の被ばく覚悟で、警戒区域で牛を飼育し続けています。

牧場は「希望の牧場」と名付けられ、警戒区域から牛たちの声なきSOSを発信しています。



今もなお、死を待つだけの牛たちが300頭牧場で生活しています。やせ細った牛たちと目が合うと涙があふれました。

命を無駄にしてほしくないと、この牛たちは生体と放射能の因果関係についての研究対象となるそうです。



背後に見えるのは、全国の支援者から集められた飼料の山々。吉沢さんの取り組みに対して、自治体では公開制限を求めたそうですが、憲法違反の検閲に当たるとして撤回に持ち込んだそうです。